

足裏の模様、災害時の身元確認に

風紋

様、「足紋(そくもん)」の読み取りが完了した。各地で採取体験会を開いてきた。

10月19日、熊本市で開かれた国内最大級の防災イベント「ぼうさいこくたい2024」の会場に、NPO法人、全国足紋普及協会(東京・品川)のブースを訪ねた。

イスに腰掛けて、靴と靴下を脱ぐ。片足ずつ専用スキャナーの上に置き、ぐっと力を込める。この間わずか数十秒。足の裏にある紋



「こんなふうにして足紋ってはかれるんだ」。採取体験にチャレンジした安武桜祐くん(3)＝10月19日、熊本市

指紋と同じく足紋は一人ひとりのパターンが異なり、生涯変化しない。足紋協会は「災害時の身元確認に活用できる」と普及を旨とし、災害の際、損傷などで確認できない遺体は指紋や歯

早く正確 NPO が提唱

型、DNA型による鑑定が行われる。だが警察が保管している対照可能な指紋は逮捕された人などに限られる。歯型は治療記録の存在が大前提。DNA型の照合にも遺体と親族のものなど2件の鑑定が必要で、日数、費用がかかる。

足紋協会の理事、光眞(みつみ)章(あきら)さん(76)は警視庁の鑑識課長や捜査1課長を務めた。退官後、2011年の東日本大震災で遺体の取り違えが起きたことを知り、「何かいい手段はないか」と考え、思い至ったのが足紋だった。

靴や靴下をはいているケースが多く、足紋は損傷を受けにくい。指紋のように捜査や生体認証などで日常的に利用されていないため、採取することへの抵抗感も強くない。

「捜査に使う指紋は最後は人の目で判断するが、災害時の身元確認であれば自動照合でほぼ間違いなく判定が可能。警察官を被災者の救援などほかの任務に振り向けられる(光眞さん)。大手電機メーカーに依頼して足紋の読み取り・照合のための機器を開発し、足紋協会を設立した。

(坂口祐一)

採取用のキットは、700円程度の実費で入手できる。問い合わせは全国足紋普及協会(電子メール)に ukyoju@sokumon.com [03-62698023](tel:03-62698023) (00)まで。